

## 第 14 回すばる小委員会議事録

日時：7 月 21 日（火）午前 11 時 10 分より午後 3 時

場所：東北大学 理学研究科 物理 A 棟 8 階 806 号室

（三鷹、広島大学、ハワイ観測所と TV 会議接続）

出席者：青木和光、有本信雄、市川隆、菅井肇、浜名崇、本原顕太郎、

松原英雄、吉田道利(以上東北大学)、

川端弘治(広島大学から TV 会議接続)

林正彦(所長報告の項のみハワイ観測所から TV 会議接続)

欠席者：伊藤洋一、臼田知史、太田耕司、高遠徳尚、田村元秀、山下卓也

書記：吉田千枝（三鷹から TV 会議接続）

### 1 所長報告

#### 1.1 WFMOS 様の装置について

東京大学 IPMU で村山機構長を中心に補正予算要求が進んでいるので、我々の手を離れた。装置の名称も変更になる。

#### 1.2 悪条件観測について

具体的にどういうことがやりたいのかを SAC から文書で出してほしい。

天候が悪い場合、現状では PI 自身によるバックアップ・プログラムを実施しているが、観測条件については定量的な判断ができないので、SS の精神的負担が大きいと聞いている。

#### 1.3 前回の中国提案について

先方には具体的な提案を文書で出してほしいと伝えてあるが、HiCIAO を凌駕する装置とは思えないし、なぜすばるを試験用に使わなければならないのかもわからない。双方に利益がある共同研究でなければ実施しない。NAOC（中国国家天文台）を代表してコンタクトしているという点にも疑問がある。

委員長：それとは別に、北京天文台副台長の Zhao さんと会ったが、NAOC では日本側からの代理人の訪問を待っているようだ。

所長：一度所長+SAC 委員長で北京天文台を訪問する必要があるだろう。

#### 1.4 IRCS のアップグレードのための科研費について

寺田さんが中心になって科研費を申請し、3000 万円認められた。検出器も別途確保できることになっている。IRCS の分解能は現在 20,000 だが、70,000 にすることができる。地球質量惑星のドップラー効果による検出を目指したい。

## 2 TAC 委員改選について

川端委員から光天連推薦による候補者 8 名が報告された。5 月の委員会に提出された TAC 推薦の候補者 9 名（重複あり）と合わせて検討した結果、3 名の新委員候補者と 3 名の予備候補者を選定した。ただちに依頼状を送付し、本人の内諾を得た上で 7/27 の光赤外専門委員会に推薦する。

児玉忠恭氏後任：柏川伸成氏

茂山俊和氏後任：長滝重博氏

長田哲也氏後任：伊藤洋一氏

（注：光赤外専門委員会において原案通り承認された）

## 3 中国との共同研究について

### ・LAMOST 訪問報告（委員長）

北京天文台を訪問した折に、LAMOST を見学する機会を得た。組み立ては終了し調整の段階だが、人手不足で、まだ時間がかかる様子だった。中国側では Pan-STARS との連携を進めている。

C：中国ではドイツとの共同研究も進んでいるようだ。

C：中国は日本よりアメリカに多くの院生が行っているのではないかと？

レベルの高い人はすでに中国国外に出ており、中国としては優秀な人を温存しようという方向なので、これから送り出そうという人のレベルは要注意だ。

C：中国側がどういう共同研究を目指しているのかわからない。

C：学生を日本に送りこんですばるを使う研究をするのならよいが、単に中国研究者がすばるを使いたいというのでは困る。

C：（中国から学生を招聘しなければならないほど）日本国内の学生は不足しているのか？

C : 不足している。

C : SDSS の時にも日本から参加しようという人はなかなか居なかった。LAMOST をやろうという人を日本で集めるのは難しいだろう。

委員長 : 学会を東アジア合同でやるというのはどうだろう？

C : 2015 年に北京で IAU 総会を開催する予定になっている。

委員長 : 光赤外専門委員会でも国際共同について検討中だ。韓国の研究者は見えてきたが、中国の研究者はまだよくわからない。

C : 共同で研究会を開催する等はイメージできるが、そこから先がわからない。先方が望んでいるのはその先、例えば LAMOST のオペレーションを共同でやる等だと思うが。

C : そもそも LAMOST の目的は何なのか？

C : 銀河カタログを作ると聞いているが。

C : 大分前から言っていることで、時間がかかりすぎている。

C : あまり中国のことを知らないので、新鮮な話だった。共同研究にはまず個人的なつながりが重要だろう。

C : 我々のほうから共同研究の進め方を提案していく必要があるだろう。

#### 4 第 3 回国際研究集会について (青木委員)

第 3 回のすばる国際研究集会を恒星・銀河系関係で企画するように所長から委嘱され、検討を開始した。系外惑星を含めるかどうか迷っている。2010 年 4 月に GRB 研究会が京都で計画されているそうなので、それとの重複を避けたい。

検討の結果、開催時期は 2011 年 3 月とし、関係分野についてはさらに検討することとなった。

#### 5 今後のすばるの運用について

##### 5.1 インテンシブ枠の拡大について

最近のインテンシブ枠への応募が低調なことを見ても、枠の規模が中途半端で現状にそぐわなくなっているのではないかと S10B からの変更を視野に、次回簡単な文書を用意して検討したい。

C : UM に提案して検討してはどうか？

## 5.2 すきま時間の利用について

すきま時間は PI が観測所に返すことにして、観測所が全部集めて何かに使うというのはどうか？

C : すきま時間ができるかどうかわかるのは観測割当が決まってからだ。

C : 自分のすきま時間を取り上げられることにはやはり抵抗があるだろう。

C : すきま時間に次の観測の準備をする人もいる。

C : それがクラシカル観測を行う理由でもある。

前回 Gemini の公募システムの中で紹介された Poor Observation Proposal (POP) というのはすきま時間観測とは全く別のもので、天候条件が非常に悪い場合に通常観測を中止し、悪条件でも実施できるプログラム (POP) に切り替える方式。POP は通常の公募とは別枠で随時募集している。

C : Gemini はキュー観測だからできることだ。

C : 実際に POP を設けても応募する人がどの程度いるだろうか？

C : 天候条件を数値化してプロポーザルに明記するようにしないと、現場で判断する SS の負担になる。

委員長 : 試案のようなものを作りたい (川端委員に委嘱)。

## 5.3 すばるユーザーの固定化傾向について

委員長 : すばるのユーザーが固定化している印象があるが、実際にそうなのか次回の委員会までに共同利用の統計を準備したい。

C : 実際に固定化していた場合、どのように対応するのか？

C : TAC の判断次第なので、SAC としてはどう議論するのか？きちんと書いてある提案はどうしても通りやすいだろう。

C : ボーダーライン上の提案は裁量の余地がある。

C : ボーダーライン上でなくても院生を積極的に取る等はあるだろう。

C : 新しいユーザーをどんどん育てる必要がある。

C : 昨年度すばる関係で学位を取った人は 3 人だった。これまでは 8 人程度だったが。

C : 今年は院生が相当数いるので、次回はまた増えるだろう。

C：ドクターコースに進む人が減ってきている。

C：後進を育てるためにはポストを用意しないとだめだ。大学でもキャリアパスの講習会等を実施している。大学の評価そのものにも大きく関ってくる。

委員長：きょうの院生との懇談でも話題にしたい。

## 6 今後の研究会開催について

委員長：

Subaru-ALMA 連携について銀河分野の研究会を今年中に実施したい。

前々回の委員会が出た Gemini のサイエンス研究会はどうするか？

Gemini の装置で、我々に何ができそうか？実際に時間交換枠で Gemini を使った人に発表してもらうのもよい。

## 7 東北大院生・スタッフとの懇談

(好評につき、今後も継続して行う)

\*\*\*\* 資料 \*\*\*\*

- 1 TAC 委員候補者の TAC 推薦及び光天連推薦
- 2 第 3 回すばる国際研究集会について
- 3 LAMOST 紹介パンフレット
- 4 JWST の紹介 (検討は次回)

\*\*\*\*\*